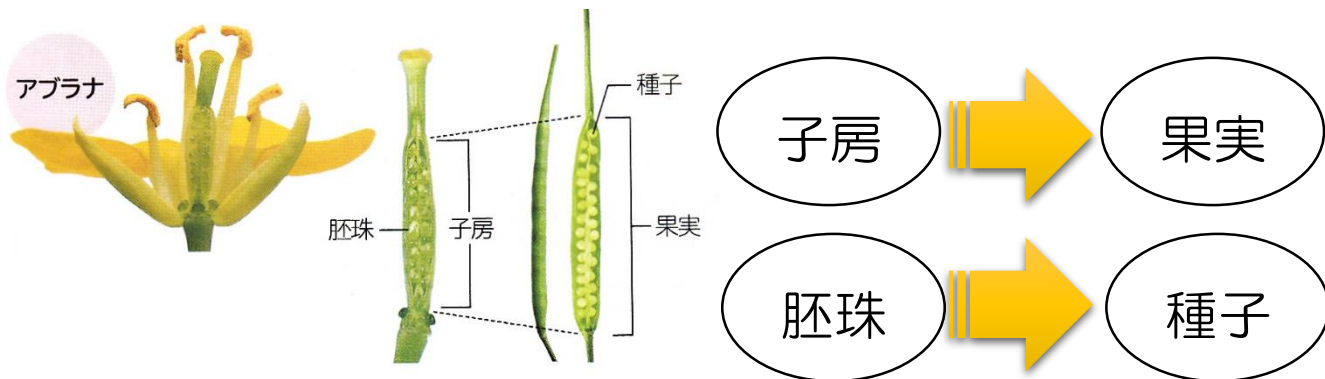


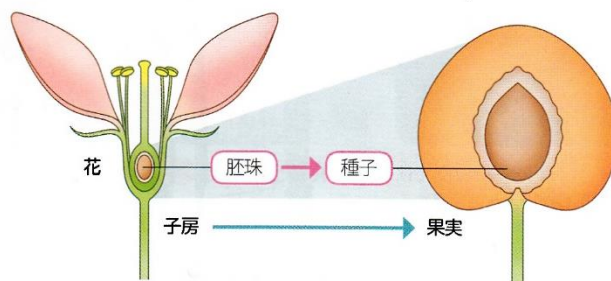
# 花のはたらき (教科書 P27~P29)

花のどの部分が種子や果実になるのだろうか？

アブラナの花を例にとってみると・・・



おしべで作られた花粉がめしべの柱頭につくことを「受粉」  
受粉するとめしべの「子房」「胚珠」がそれぞれ「果実」「種子」になる！



ちなみに・・・

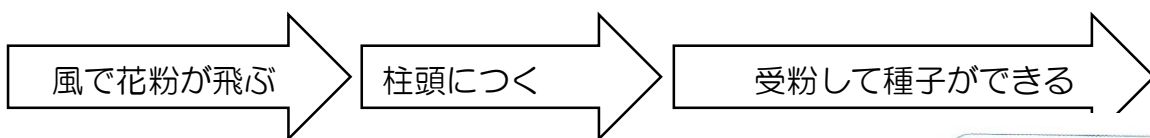
種子ができる植物をまとめて「**種子植物**」といいます  
エンドウやサクラも同じようにできるよ



受粉に必要な花粉はどうやって運ばれるのだろうか？

それは「風」と「虫」のはたらきです！！

「風」は何となく想像がつかますよね？



風により花粉を運ぶ花を「風媒花（ふうばいか）」といいます。



★1：クロマツの花粉には空気袋きうきがあり、風に運ばれやすくなっている。

「虫」はどうだろう・・・

なぜ虫が花粉を運ぶのか???

花に虫がとまっているのをみたことはありませんか？

蜜を吸いに来た虫の体に花粉が付き、めしべまで運んでいたのです。

虫が来やすいように  
目立つ色や形の花が多い

「虫媒花（ちゅうばいか）」という

種子も運ばれ方があります。

下の図をみてみよう！！

